

月刊の～の～

2025

4月号
vol.40



「横町通信」改め、
「月刊の～の～」と申します。

この紙面を手にとった時、「なんだか見覚えがない紙が入っているなあ」と思われたかもしれません。そのまま捨てずに、今この文章を読んでくださってありがとうございます。ご迷惑です。「横町通信」改め、「月刊の～の～」と申します。

「の～の～」という言葉から、あなたは何を連想しますか？アーティストの「ちゃんみな」さんがプロデュースして話題になった「No No Girls（ノーノーガールズ）」というガールズグループオーディション番組を連想した人もいるかもしれません。しかし、ここにはまた別の由来があります。この名前は、大野の人が誰かに話しかける時の「の～の～」という方言から名付けました。これまでは、発行元である横町編集部の拠点「横町スタジオ」の活動を主に紹介していましたが、これから大野で見聞きしたことを広く取り上げます。コンセプトは、「大野のまちを横から見る」。

「の～の～」という人々に話しかけながら毎月作っていく予定ですので、ぜひお暇な時に読んで頂けたら嬉しく思います。



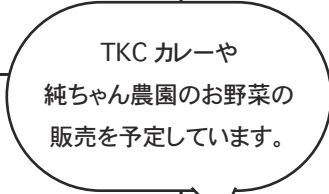
電信柱にかけられるスコップ。大野では当たり前のこんな風景も、雪国ならではの風景なんだと再認識しました。

話は変わって、筆者は大野出身なのですが、お恥ずかしいことに移住してきた同世代の友人たちの方がよっぽど大野に詳しいと感じています。「灯台下暗し」じゃないですが、日々目に入ってくるまちの風景が当たり前になりすぎて、気付けないことも多いようです。集団登校の時に歩いていた道の途中に素敵な喫茶店があることも知りませんでした。一方で、長く住んでいるからこそ知るまちの歩みや魅力もあるはず。大野を新しい視点で見ると、大野で生まれ育った人の視点、市外からやってきた人の視点の両方が必要そうです。「の～の～」ではおたよりも募集しておりますので、ぜひあなたの声も聞かせてください！

4月

月間予定表

月刊の一の一を作っている横町編集部と
大野の印刷・編集室みなとの活動予定をご紹介します！

日	月	火	水	木	金	土
		1 	2 【横町】 水槽水替えの日 17:00-18:00	3	4	5 【横町】 ものづくりWS ※内容は後日案内 10:30-12:00 
6	7	8	9 【横町】 水槽水替えの日 17:00-18:00	10	11	12
13	14	15	16 【横町】 水槽水替えの日 17:00-18:00	17	TKC カレーや 純ちゃん農園のお野菜の 販売を予定しています。 	
20 【みなと】 ZINE づくりWS 13:00-15:00 	21	22	23 【横町】 水槽水替えの日 17:00-18:00	24	25	26 【横町】 縁日 10:00-15:00
27	28	29	30 【横町】 水槽水替えの日 17:00-18:00 	31		

月刊の～の～って？

「月刊の一の一」は、関西大学の研究拠点「横町スタジオ」を運営する横町編集部が発行するおたよりです。「まちを横から見る」というコンセプトで、「の～の～」と人に話しかけながら、毎月いろんな大野を紹介します。読み手である大野の人と一緒に作ることを大切にしているので、まちづくりや、編集・デザイン等に関心がある人はぜひご連絡ください！

横町編集部
Instagram



横町スタジオを 使ってみませんか？

コワーキングスペースでお仕事したり、自分で企画したイベントを開いてみたり、DIYでものづくりしたり…横町スタジオは、いろんな過ごし方ができる場所。ピンときた方はご連絡を↓



yokomachi.hensyubu@gmail.com

横町通信のーのー

●担当を変えながら、毎月記録を続けてきました。

●「読む」人が「作る」人になる

2021年12月に始めた横町通信、初めはカラー印刷だったことをご存じでしょうか。のーのー創刊号ということで、毎月発刊し続けてきた4年弱の軌跡をちょっつとご紹介します。

2021



担当：三浦

2023



担当：川口

2024



担当：木村

横町通信は、横町スタジオの活動を地域の人知ってもらう目的で、二〇二一年の十二月に毎月発刊を開始しました。当時の誌面の写真に写っている人たちがみんなマスクをつけていて、コロナ禍が遠い昔の話のような不思議な感覚になります。読み返すと、スタジオ正面の看板を制作するプロセスや、今や拠点の定番アイテムとなったガチャガチャを導入した話などが残っていて、毎月記録に残すことの価値を数年越しに感じました。二〇二三年、横町編集部から川口にバトンがわたり、翌年一月に誌面をリニューアル。「大野の印刷・編集室みなと（以下、みなと）」に印刷を依頼し、執筆から印刷まで地産地消（？）のおたよりになりました。そして二〇二四年の四月からは現担当の木村に交代し、今年からはみなとの山本さんも記事を執筆予定。作り手を変えながら、今号で四十号を迎えます。



「横町通信」のロゴを制作した足立さん（左上）と作字のアイデアを交換する玉木さん（下）。



新しいロゴは投票で決定。オンライン投票では、市外の方からも票を頂きました。

月刊のーのーで大切にしたいこと、それは読み手の関わりしろがあるおたよりにすること。その背景には、大野に住んでいる人と一緒に大野の面白さを発掘していきたいという想いがあります。そこで、今回のリニューアルに際して早速新しいタイトル文字のロゴデザインを、福井工業大学でデザインを学んでいる玉木だいいちさん（大野在住）に依頼しました。横町通信のロゴデザインを担当した関西大学卒業生の足立さんに引き継ぎを依頼。文字のデザインをする時の方法やアイデアの膨らませ方などについて、オンラインでディスカッションしました。そして、玉木さんから上がった複数の案から一つに決める方法として、今回は投票を実施。決める時も読み手の人と一緒に行いました。そんなこんなで出来上がったロゴを今号から使用しています。まちづくりに関心がある人、編集やデザインに関心がある人は、ぜひ声をかけてくださいね。

のーのーNEWS

よこ道、わき道、まわり道。

し しゃも焼きつつ、2024年度を振り返る。

2月23日に「関西大学まちづくり研究報告会」が行われました。長いようで短かったような気もするこの一年、気づけばいろんな活動が増えていて、スタジオを訪れる人の属性やニーズは多様化しているようです。報告会の中には「腐敗の中から新しいものが生まれる」「関われる故郷を作る」などのキーワードも。終了後は、大学の先生方や大野市役所の方も交えて、ししゃもを焼きつつプチ宴会。忙しい日々ですが、時には振り返る時間が大切だなと感じました。



（写真下）じっくりじわじわと焼かれるししゃもを見ていると、あっという間に時間が経つ。

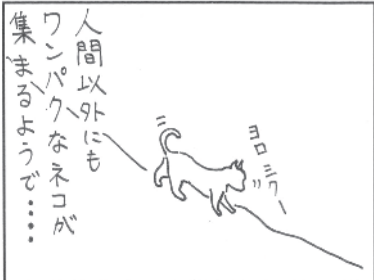
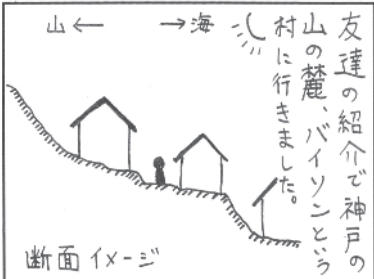
N eo朝市メンバーがスタジオでTシャツづくり

七間朝市を盛り上げるために活動する「Neo朝市」のメンバーが、横町スタジオでオリジナルグッズを制作しました。Neo朝市の活動は、メンバーの竹田くんが高志中学校の時にに行った探求学習がきっかけで始まっているそうです。七間のおばあちゃんたちに弟子入りする「七間弟子市」を4月にも開催予定とのこと。オリジナルグッズがあることで活動の輪が少しずつ広がっていくかもしれません。



（写真下）越美北線に乗って帰らないといけないうのに、時間ギリギリまで作業をする原くん。

バイソン
作：パトシ



おたより求ム！

読者投稿コーナーへのおたよりをお待ちしております。基本的にはなんでもウェルカムです。投稿いただいたおたよりは、月刊のーのーで紹介させていただきます。横町スタジオに設置されているおたより箱または右記の二次元バーコードから投稿してください。



川柳

写真

悩み

絵

今月の投稿

川柳

横から失礼！

投稿コーナー

気まぐれ

「メロいとは」

ネットで調べて

知る歳に

（豆腐小僧）

これまでは友達との会話の中で習得してきたのですが…